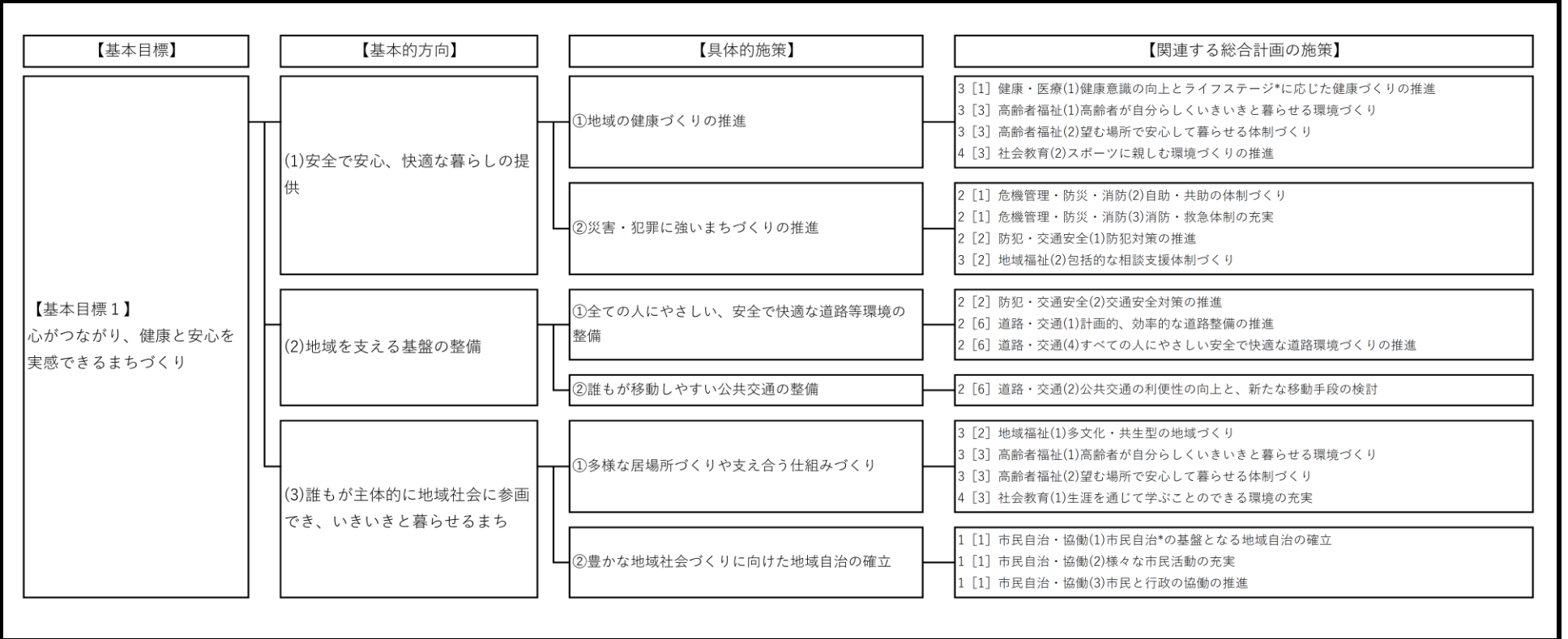


基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり

- ◆ あらゆる世代の人の生活の質(QOL※)の向上と、健康寿命の延伸が図れるように、地域活動や就労、スポーツなどを通じた生きがいづくりや、介護・疾病予防活動等のエイジフレンドリーシティ※の取組などを推進します。
- ◆ すべての人にやさしい安全で快適な道路環境やバリアフリー※化などによる交通環境の整備を推進します。
- ◆ 地域の特性に応じた公共交通や新たな移動手段の確保により、誰もが移動しやすい環境づくりに取り組みます。
- ◆ 「支え手」「受け手」という関係性を越えて、誰もが主体的に参画できる地域社会づくりを推進します。
- ◆ 社会的な孤立を防ぎ、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるように、関係機関における制度・分野の横断的な連携を強化し、一生涯を支える切れ目のない支援体制づくりに取り組みます。
- ◆ 災害や感染症の蔓延(まん)延に備え、自助・共助の体制づくりの支援に取り組みます。



<指標の達成状況>

NO.	指標	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	健康寿命	歳	男性:81.16 女性:84.51	-					男性:82.16 女性:85.51	国勢調査の結果から県が5年毎に算定しており、R2年健康寿命はR4年10月末に公表される予定。	健康推進室
2	「とても幸せ、幸せ」と回答した人の割合(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	%	67.0	-					基準値以上	3年ごとの調査のため、次回調査結果はR5年度に判明する。	安心ネットワーク推進室
3	「引き続き宝塚市内に住み続けたい」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	77.1	72.5					79.8%以上	数値は達成できていないが、年代が上がり、長期間済み続けている市民ほど%が高い結果となっており、若い世代に愛着を持っていただくことが課題である。	政策室

<KPIの達成状況>

基本的方向(1) 安全で安心、快適な暮らしの提供											担当室
具体的施策① 地域の健康づくりの推進											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	「意識的に健康づくりに取り組んでいる」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	52.5	53.8					57.5%以上	コロナ禍の影響により活動が制限されることから意識的に健康づくりに取り組む人は増加したと思われる	健康推進室
2	国民健康保険特定健康診査受診率	%	37.4	36.3					60.0	令和2年度から受診率は増加したが、コロナ禍の影響により健診の受診控えは続いている	健康推進室
3	65歳以上の要支援の認定率	%	7.0	6.8					7.8%以下	目標を達成した。推計では認定率は年々増加傾向にある。	安心ネットワーク推進室
4	「週1回以上スポーツに取り組んでいる」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	35.4	35.7					38.0	実績値は改善となっているが、コロナ禍での実績値であり、達成度の判断では参考値となると考えている。一方で、市民のスポーツ機会の創出において、一定の効果があった点において評価する。	生涯学習室
具体的施策② 災害・犯罪に強いまちづくりの推進											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	災害時要援護者避難支援組織数	組織	48	50					基準値以上	市民に対する説明会を開く等により支援組織の立ち上げについて周知し、計50団体となった。	安心ネットワーク推進室
2	「日頃から災害に対する備えをしている」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	48.9	50.0					50.0	コロナ禍や各地で日本各地で災害があったことから、ホームページやSNSを通じて、自助の備えを継続的に啓発した結果、増加させることができた。	危機管理室
3	安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数	人	27,869	38,799					33,000	新規登録の促進を行った結果、順調に登録者を増加させることができた。	危機管理室
4	犯罪発生件数	件	856	756					814	達成。犯罪発生件数は年々減少傾向にある。	生活安全室

基本的方向(2) 地域を支える基盤の整備											担当室
具体的施策① すべての人にやさしい、安全で快適な道路等環境の整備											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	「道路環境の整備ができています」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	新規	9.8					基準値以上	新規の数値であるため評価が困難であるが、今後、評価値が上がっていくよう整備に努める。	建設室
2	都市計画道路整備率	%	72.8	73.0					74.1	荒地西山線及び競馬場高丸線の整備事業について、概ね順調に推移した。	建設室
3	交通事故(人身事故)発生件数	件	416	434					396	未達成。阪神間では芦屋市、川西市、猪名川町も前年より増加。	生活安全室
4	交通安全教室、講習会、啓発活動回数	回	155	78					161	未達成。コロナ禍の影響を受けて主に児童を対象にした啓発回数が減少。	生活安全室
具体的施策② 誰もが移動しやすい公共交通の整備											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	公共交通の利用者数	人	258,582	205,263					259,877	R3実績値はコロナ禍の影響により減少している。 ※R3実績値のうち、阪神バスはR2	建設室
2	ノンステップバスの導入率	%	71.6	71.6					73.1	R3は新規の導入予定がなかったことから数値は横ばいであるが、計画どおり達成されたと言える。	建設室
基本的方向(3) 誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち											担当室
具体的施策① 多様な居場所づくりや支え合う仕組みづくり											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	市内のサロン等の居場所数	箇所	197	202					基準値以上	令和3年度中に活動実態があった、または、活動継続意思のあったサロン等の数であるが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間中は、ほとんどが中止をしていた。	安心ネットワーク推進室
2	見守り、支え合い活動に取り組む活動グループ数	グループ	155	174					基準値以上	地区担当との連携により、日常生活圏域で行われている見守りの話し合いの場を掘り起こし、新たな見守り活動の把握に努めたことにより、微増となっている。	安心ネットワーク推進室
3	公民館利用者数	人	374,895	227,523					390,000	実績値は西公民館の休館や、コロナ禍での公民館利用制限などもあり参考値となると考える。そのような状況下でも、公民館の機能と役割において、一定利用者があった点において評価する。	生涯学習室
4	市立中央図書館、西図書館の来館者数	人	新規	111,432					基準値以上	令和3年12月から統計開始した来場者数であり、同時期大規模修繕で閉館した西図書館の来館者は含まれていない。従って、実績値は中央図書館の12月以降の来館者数である。今後の状況を注視していく。一方で、コロナ禍のなか図書館サービスの一定利用者があった点において評価する。	生涯学習室
具体的施策② 豊かな地域社会づくりに向けた地域自治の確立											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	地域ごとのまちづくり計画において達成又は順調に進んでいる取組の割合	%	新規	68.0					80.0	令和4年6月15日時点で20組織のうち16組織から進捗状況の報告があった。組織によって指標に差はあるものの、コロナ禍において、各組織が感染症対策をとりつつ工夫しながら活動されたことを評価する。	きずなづくり室
2	「協働の取組への意向を持っている」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	12.9	19.3					25.0	前回調査より協働の取組への意向が高まり、目標を達成した。	きずなづくり室

<評価>

自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)	
<p>【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果】</p> <p>健康寿命を延伸するためには、定期的な健診や生活習慣の改善が重要であるが、国民健康保険特定健康診査受診率はコロナ禍による受診控えが続いており、目標の達成には至っていない。</p> <p>一方で、地域でのつながりを実感できる施策としては、居場所づくりとしてのサロン開催はコロナ禍で中止も目立ったものの継続の意思は確認できており、地区担当(社会福祉協議会)との連携により、地域での見守り活動の把握に努めた結果、既存の活動グループの掘り起こしにつながっている。公民館や図書館の利用者についても、コロナの影響により一時的に落ち込んでいる中で一定の利用者を保っており、地域での居場所づくり、つながりづくりに寄与しているといえる。</p> <p>また、地域での安心を実感できるまちづくりのひとつとして、災害時における要援護者避難支援組織については、説明会の開催などにより周知を図り、少しずつ増えている。災害時の自助・共助の必要性に対する認識を広め、地域での人と人とのつながりづくりを進めることができた。</p>	
<p>【今後の課題と改善策】</p> <p>健康づくり、人と人のつながりを通じた地域づくりは一朝一夕に成しうるものではないため、まずは現在の事業を地道に継続し、より効果を生むような小さな改善を積み重ねていくことが必要である。国民健康保険特定健康診査の受診率向上については、効果的な方法を検討しながら委託による電話や訪問での受診勧奨を継続して行う。</p> <p>一方で、今回のコロナの影響などに鑑みれば、地域のつながりにおいても、人と人のつながりでありつつ、対面だけでなくICTをいかに取り入れるかが今後の課題の一つと考える。本市は年間1万人前後の市民が転出し、また転入されるため、新規に住民となった人への支援や、住み続けたいと思える施策については今後も検討が必要である。</p> <p>なお健康づくりの啓発においても、デジタル化などを効果的に取り入れ、市ホームページやInstagramなどを充実させながら情報発信を行う。</p>	

外部評価

【基本的方向1】

○主な取組の成果として以下の内容を確認した。

1. 「国民健康保険特定健康診査」について、委託事業者からの電話や個別通知により受診勧奨を行い、受診率向上に向けたより細やかなアプローチが行われている。
2. 「週1回以上スポーツに取り組んでいると回答した市民の割合」が上昇している。このことから、市民のスポーツ機会の創出については一定の成果がある。
3. 犯罪発生件数年々が減っている。平成29年度から3箇年で市域に230台の防犯カメラを市は設置しており、今後、効果検証を行う。補助カメラについても令和3年度末までに累計105台の防犯カメラが地域で設置されている。
4. 「安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数」については令和2年度に約9,000万円をかけ、防災に係るシステムの基盤を構築できた。その他の要因も相まって、防災施策の主要な目的である市民の「自分の命は自分で守る」という意識の高まりが、結果として登録者数の増につながっている。

○その他以下のような課題が指摘された。

1. 他に適切な指標がなく、やむを得ず市民アンケートの結果を指標として設定するならば、定期的実施されておりかつ項目が変化しないことが条件である。出典も明記ありたい。
2. 「65歳以上の要支援の認定率」について、目標値が推計値であることから実際の数値と大きく乖離し得る点は要注意である。他の指標候補を検討ありたい。
3. 「安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数」については、実際の施策と成果指標の関連性について分かりやすく整理した方が良い。

【基本的方向2】

○主な取組の成果として以下の内容を確認した。

1. 宝塚市では現在2路線について都市計画道路の整備を進めているが、補助金も得ながら着実に推進できている。
2. 地域公共交通計画を進めているところ、高齢者の移動手段の確保という課題とも向き合いつつ、外部専門家や交通事業者とも協議を進めることができている。
3. 第11次宝塚市交通安全計画を策定し市域の事故の傾向を分析したところ、自転車・歩行者・高齢者の事故の割合が増加傾向にあることが分かったため、その対策としてゾーン30の増設や自転車のヘルメット着用率の向上に向けて事業を推進することができている。

○その他以下のような課題が指摘された。

1. 宝塚市の道路環境としては渋滞の問題が大きく、産業にも影響している。渋滞は道路整備の結果として出てくるため、渋滞の解消に向けた指標の設定についても検討するべきではないか。
2. 市民アンケートでは宝塚市の優れた点として、公共交通の利便性が2位に挙げられている一方で、転出の理由の上位にも公共交通の利便性が挙げられている。地域差などの要因があると思われる。分析を進めていただきたい。
3. 地域交通の重要性を踏まえると、今後策定される地域公共交通計画を総合戦略に反映することも検討課題である。

【基本的方向3】

○主な取組の成果として以下の内容を確認した。

1. 地域住民の居場所づくりや見守り、支え合い活動等のためのサロン等の居場所数が増加した。社会福祉協議会と連携し、どこにどのような集いの場があるのかをまとめた「たからづかつどい場マップ」のホームページを作成している。
2. コロナ禍以後の市民活動の活発化を見据え、西図書館・西公民館において空調改修工事を実施した(約2億円)。また、情報のデジタル化のため、文化財資料などの画像データのアーカイブ化が進んだ(約1,800万円)。その他、図書館事業の参考成果指標では、市民一人当たりの貸出冊数が8.6冊となり、阪神7市において2位となった。
3. 20のまちづくり協議会が作成した地域ごとのまちづくり計画における具体的な取組を協働で進めるための仕組みを令和3年度に構築した。

○その他以下のような課題が指摘された。

1. 福祉電話など行政で良い取組をしているがあまり知られていないものもあるため、取組内容を一覧にし、ワンストップで対応できるような仕組みを検討してはどうか。
2. 孤立している人は集える場所にさえ行けない。そのような住民に対するアプローチや施策が必要であり、実際に既に取り組んでいるのであれば可視化が求められる。

外部評価を受けての対応

【基本的方向1】

1. 市民アンケートの結果を指標とする場合は定期的、定量的に測定できるものを検討する。他のアンケート等を引用する場合は出典を明記するようにする。

2. いきいき百歳体操実施団体数を指標に変更する。

3. 災害に強いまちにするためには、行政側と市民側の双方の迅速な災害対応力が求められる。行政側においては災害情報を伝達するためのシステム環境等の整備を行い、市民側においても迅速に情報を取得するための手段を確保しておくことが大切である。施策を構成する主たる事務事業のみならず様々な防災施策により、市民の「自分の命は自分で守る」という意識が高まった結果が、「安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数」として表れると考える。今後も引き続き、「安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数」の増を目指す。

【基本的方向2】

1. 渋滞に関する指標については、従来からその必要性を認識し検討しているものの、指標に用いる数値を得るためには、毎年の業務委託発注や交通ビッグデータの利用、解析作業等が必要となることから、費用面等の課題があり現時点での新たな設定は困難であると考えている。なお、市内の渋滞課題は道路網が不十分であることが主な原因のため、現在の指標である「都市計画道路整備率」に関連すると考えている。

2. 公共交通の利便性について、地域差が生じていることは認識している。今年度策定予定の「宝塚市地域公共交通計画」の中で、市民の日常生活において必要な買い物や通院ができる移動のしやすさを、地域ごとに活動機会指標として数値化し、地域分類による評価を行っている。

3. 「宝塚市地域公共交通計画」の策定にあたっては、総合戦略の基本目標に基づく施策と連携し定めることとしている。

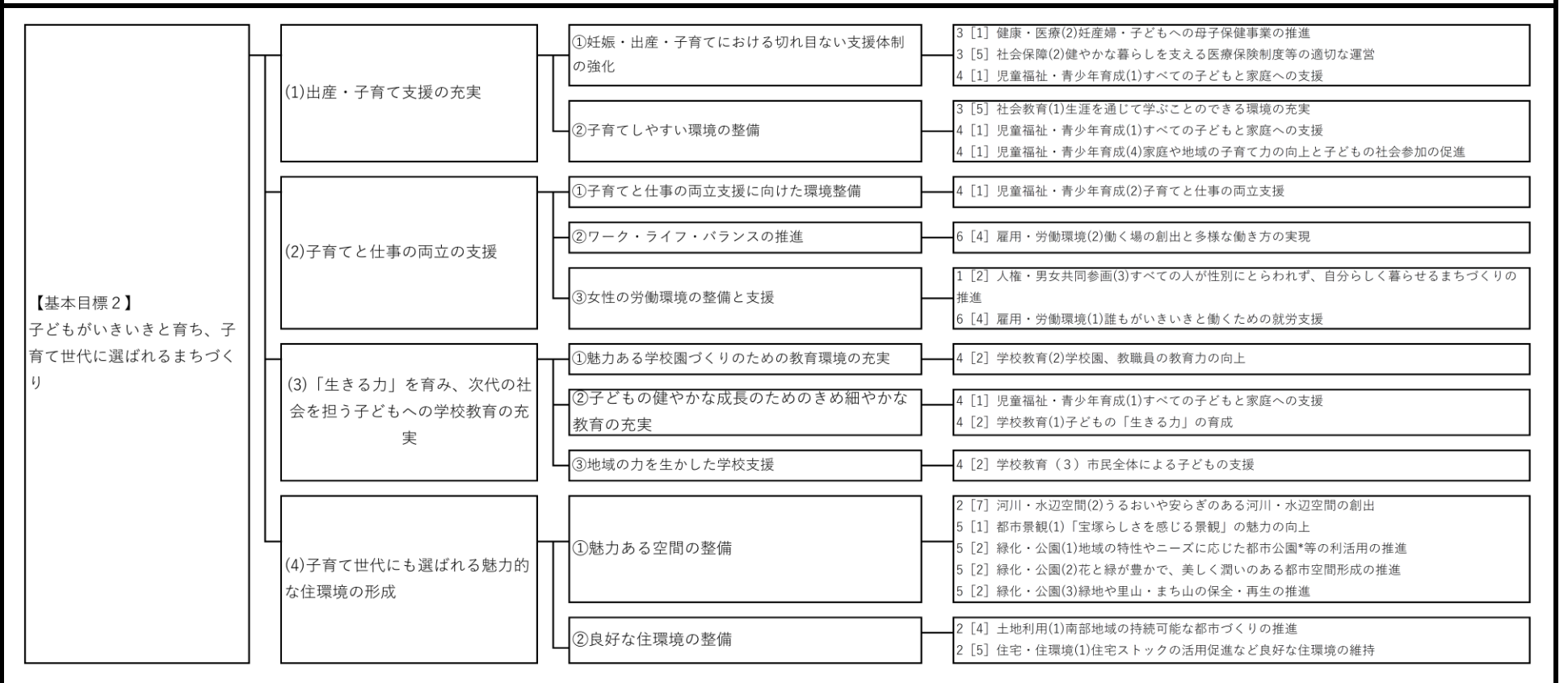
【基本的方向3】

1. 高齢者福祉と介護保険の手引きとして「いきいきガイドブック」を作成しており、利用できるサービスを掲載している。掲載されているサービスの実施主体が異なるためワンストップでの対応については検討していないが、市民からの問い合わせには対応できるようにしている。

2. 声を上げることができない、しない人へのアプローチの重要性は認識している。地域で孤立している人を地域の人や専門職が認識した際には連携して対応できる体制を作ることから取り組んでいる。

基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり

- ◆ 未来を担う子どもがたくさんの遊びや学びを経験し、将来の夢や希望を持って、心豊かにいきいきと育つ環境づくりを子どもの権利を尊重する視点に立って推進します。
- ◆ 地域社会全体の子育て意識を向上させ、安心して子どもを産み、楽しく子育てできる環境づくりを推進するとともに、配慮が必要な子どもと家庭への支援や貧困対策、仕事の両立支援などに妊娠前から切れ目なく取り組みます。
- ◆ 子育て世代にも選ばれる魅力的な住環境の形成に取り組みます。
- ◆ 家庭や地域と連携しながら、子どもの「生きる力」を育成するとともに、学校園、教職員の教育力の向上を図り、各学校園の特色ある教育やICT※環境をはじめとする教育環境の充実に取り組みます。



<指標の達成状況>

NO.	指標	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	25～39歳の転入超過数	人/年	145	-213					280人/年	原因についての特定は困難であるが、市全体でも400人を超える転入超過となっている。令和3年度末から転出入手続きの際にアンケートを実施しており、結果について分析していく。	政策室
2	合計特殊出生率	-	1.27	1.36					1.41	R3は、出生児数は微減であり、その数を上回る出産可能女性が減となったことで、出生率は基準値は上回ったが、目標を達成することはできなかった。今後、出生児数の増加も目指し、出生率の目標達成を目指す。	政策室
3	「宝塚市は子育てをしやすいまちだと思ふ」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	49.7	49.9					基準値以上	R3は、「育み」プランの目標の一つに「すべての子どもと家庭への支援」を掲げ、施策を推進した結果、目標を達成することができた。	子ども家庭室

<KPIの達成状況>

基本的方向(1) 出産・子育て支援の充実											
具体的施策① 妊娠・出産・子育てにおける切れ目ない支援体制の強化											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	29.1	32.6					33.5	R3は、「育み」プランの目標の一つに「家庭や地域の子育て力・教育力の向上」を掲げ、施策を推進したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できなかった事業もあり、目標を達成することができなかった。	子ども家庭室
2	乳幼児健診受診率	%	4か月児 98.1% 10か月児 96.4% 1歳6か月児 97.5% 3歳児 95.8%	4か月児 96.6% 10か月児 96.4% 1歳6か月児 96.1% 3歳児 95.1%					4か月児 維持 10か月児 98.0% 1歳6か月児 維持 3歳児 維持	個別健診や集団健診により感染対策を行い受診しやすい体制を整えている。目標値は未達成であるが、R2年度の実績に比べ維持又は増加している。	健康推進室
具体的施策② 子育てしやすい環境の整備											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	29.1	32.6					33.5	R3は、「育み」プランの目標の一つに「家庭や地域の子育て力・教育力の向上」を掲げ、施策を推進したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できなかった事業もあり、目標を達成することができなかった。	子ども家庭室
2	ファミリーサポートセンター会員登録数	人	1,981	2,010					2,000人以上	市広報誌や各公共施設へのチラシの設置などにより周知を行った結果、目標を達成することができた。	子ども家庭室
3	社会教育施設における子どもや子育て世代向けの事業の参加者数	人	4,817	2,166					基準値以上	コロナ禍の市民の行動制限や不安感のなか、子ども達を対象とした行事設定が困難であり、西図書館の大規模改修のため、閉館したことで相まって、実績値は基準値の半分以下となった。そのような中でも一定事業を行い参加者に学び、ふれあいの機会を創出できた点で評価する。	生涯学習室

基本的方向(2) 子育てと仕事の両立の支援											
具体的施策① 子育てと仕事の両立支援に向けた環境整備										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	保育施設の待機児童数	人	141	58					0	認可保育所分園の増築や緊急枠増などにより、83人分の受入枠の拡充を図ったが、申請者数の増加によって目標を達成できなかった。	子ども育成室
2	放課後児童健全育成事業の低学年の待機児童数	人	51	27					0	地域児童育成会の緊急枠の設定や民間放課後児童クラブ2箇所の整備などにより、121人分の受入枠の拡充を図ったが、申請者数の増加によって目標を達成できなかった。	子ども育成室
具体的施策② ワーク・ライフ・バランスの推進										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	有給休暇を80%以上取得している人の割合(市労働実態調査)	%	20.3	20.3					-	労働実態調査を令和5年度に予定しているため、R3年実績は基準値とした。	産業振興室
2	「ワーク・ライフ・バランス※がとれている」と回答した市民の割合(市労働実態調査)	%	新規	-					-	令和5年度に予定する労働実態調査の結果から記載する。	産業振興室
具体的施策③ 女性の労働環境の整備と支援										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	「社会における男女の機会均等が図られていると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	34.6	37.2 (37.8)					47.5	2.8(3.2)%高まった。法整備などにより、職場の待遇、家事・育児・介護の分担などが、認識されるようになってきた。	人権平和室
2	女性のM字カーブ世代の労働力率	%	64.5	64.5					-	国勢調査の結果が未公表のため、R3年実績は基準値とした。	産業振興室
基本的方向(3) 「生きる力」を育み、次代の社会を担う子どもへの学校教育の充実											
具体的施策① 魅力ある学校園づくりのための教育環境の充実										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	「授業が楽しく、よくわかるようになった」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)	%	82.0	92.2					85.0	ICT機器の活用により、学習に意欲的に取り組むことができ、授業の理解につながっている。	管理室
2	中学生における一人当たりの年間図書貸出冊数	冊/年	10.8	8.7					12.0	図書館利用統計値が、現在12月末までしかないが、年度末では基準値が達成できていると予想される。	管理室
3	保幼小中合同研修会において「理解できた」と回答した教職員の割合	%	68.0	69.5					75.0	達成:リモート研修を積極的に活用したこと、現場の学びたいテーマを的確に捉えたことにより研修参加者の多くが学びになったと感じた。	学校教育室
4	就学前研修において「理解できた」と回答した幼稚園教諭・保育士の割合	%	80.0	89.0					83.0	達成:リモート研修を積極的に活用したことと明日の保育にすぐに活かせる研修内容となり、研修参加者にとって有用な研修だったため。	学校教育室
具体的施策② 子どもの健やかな成長のためのきめ細やかな教育の充実										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	子どもの心を理解する講座で「満足した」と回答した参加者の割合	%	90.0	コロナ対策のため未実施					90.0	-	教育支援室
2	「宝塚市立の小・中学校の基礎・基本的な学力の定着への取組ができていていると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	8.7	9.8					基準値以上	学校では朝学習やタブレットの活用による学力の定着の取組が行われている。学校だけでなく市の施設等で放課後の学習支援が行われている。	学校教育室
3	「授業で学んだことを他の学習に生かしていると思う」と回答した生徒の割合(全国学力・学習状況調査(中学校))	%	63.6	47.8					基準値以上	感染予防のため活動が制限された授業形態のため、体験的な授業や教育活動が十分に行えていない。	学校教育室
4	スクールサポーターの配置率	%	90.6	100.0					基準値以上	今後も全校配置を継続するとともに、年間活動率の増加を目指す。	学校教育室
具体的施策③ 地域の力を生かした学校支援										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	「子ども、保護者、地域のニーズに対する教育行政の取組ができていていると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	7.3	8.9					基準値以上	学校ごとの課題や子供の育成につながるビジョンを地域との共有ができてきている。教育委員会による学校改革に進んでいる。	学校教育室
2	「保護者や地域の人のとの協働による取組が学校の教育水準の向上に効果があったと思う」と回答した中学校の割合(全国学力・学習状況調査)	%	83.3	58.3					基準値以上	外部人材の活用は、教育環境の課題解決や子供たちの学力向上につながるが、感染予防のため十分に活用できなかった。	学校教育室
3	「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	29.1	32.6					30.0	「取り組んでいる」と思う層が増えると同時に「わからない」と答えた層もわずかではあるが減っており、好ましい傾向にある。これまでの地域ごとの協働の取組の成果であるとともに、子ども・教育の分野における施策展開の呼びかけや発信の仕方も要素であると思われる。	学校教育室
4	学校支援ボランティアの活動回数	回	6,882	7,606					7,000	新型コロナウイルス感染拡大の影響により学校によっては活動の制限等があったが、一斉休校がなかったことから昨年度より活動回数は増えている。	学校教育室

基本的方向(4) 子育て世代にも選ばれる魅力的な住環境の形成										担当室	
具体的施策① 魅力ある空間の整備											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	公園アドプト制度により市民団体などが管理する公園数	箇所	61	64					67	達成。アドプト公園を対象にした地域ニーズにあった公園整備が可能な公園リノベーション事業が好評なため。	生活安全室
2	市民一人当たりの公園面積	m ²	5.1	5.2					5.5	達成。緑の基本計画を改定し、市民一人当たりの公園面積をR13で5.8m ² に見直したため、R7目標値を5.5m ² に修正。	生活安全室
3	違反広告物の除却枚数	枚	2,216	2,004					1,884	電子広告の普及により掲示広告物が減少していることも一因だろうが、毎週実施している違反広告物の除却作業が奏功している。	都市整備室
具体的施策② 良好な住環境の整備										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	市街化区域の面積	ha	2,605	2,605					2,605	都市計画マスタープランの見直しや立地適正化計画の策定を行い、持続可能なコンパクトなまちづくりを目指している。	都市整備室
2	住宅の耐震化率	%	88.4	93.1					95.0	耐震性の低い住宅の除却や耐震改修工事等の実績が少なかったため	建築住宅室

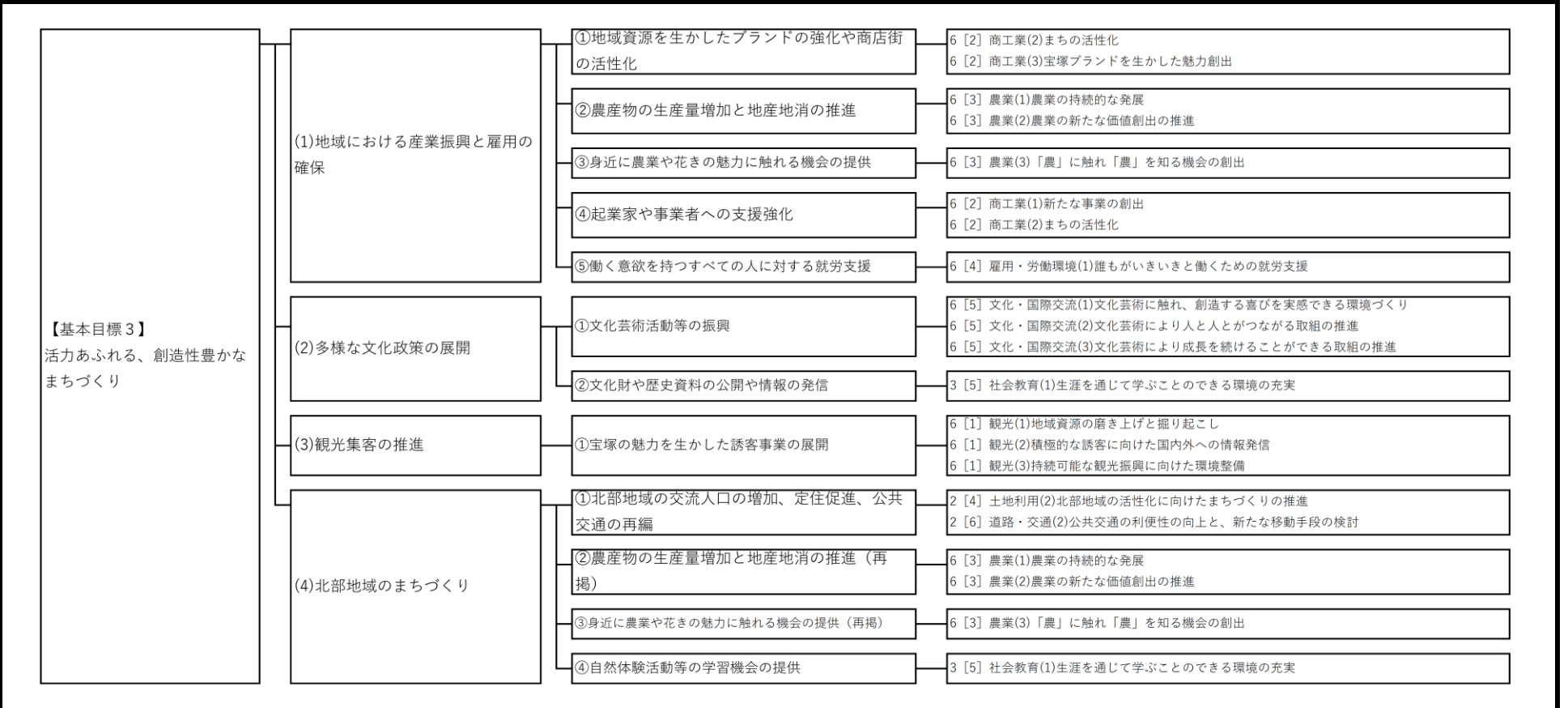
<評価>

自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)	
<p>【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果】</p> <p>保育施設では、83人、放課後児童健全育成事業では121人の受入枠をそれぞれ増やしたことで、待機児童数が減少し、仕事と子育ての両立支援に寄与した。子どもが生き生きと学ぶことのできる魅力ある学校園づくりにおいては、ICT機器の活用が学習意欲の向上、授業の理解につながっており、授業が楽しく、よくわかるようになった、と回答した児童生徒の割合は9割を超えた。</p> <p>また、学校園の外においても、市の施設等で放課後の学習支援に取り組んでおり、「宝塚市立の小中学校の基礎、基本的な学力の定着への取組ができていると思う」と回答した市民の割合は基準値を上回ることができた。</p> <p>また、地域ぐるみでの子育てにおいては、市民協働の取組が進み、子どもや教育分野における情報発信を進めたことにより「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合は基準値を超えることができた。</p>	
<p>【今後の課題と改善策】</p> <p>子育て支援の取組は進んでいるが、本市において子育て世代である25～39歳は転入超過から転出超過へと状況が変わってきており、兵庫県全体でも転出超過となっていることから、今後、再び、転入超過を指すには困難が予想される。転出入時にアンケートを実施しており、その結果分析を活用し、情報発信の強化を図るとともに、ターゲット(ペルソナ)を明確にしながらか施策を進める必要がある。</p> <p>一方で、出生率については微増にとどまったが、コロナ禍で出生数が減少していることを鑑みれば、現時点では十分な数値であると考えられる。子ども家庭総合支援拠点の開設など、今後も、子どもや子育て世代を支える施策を推進し、地域全体での子どもの育成に取り組みやすい環境づくりの支援を推進したい。</p> <p>また、学校園での教育の充実についても引き続き対応が必要である。GIGAスクールにより子どもたちがタブレットを用いた学習を始めている。教員のスキルアップを図るとともに、コロナ禍におけるリモート学習など、対面学習を根底に据えながらも、多様な学びの機会を提示し、市民へ発信していく必要がある。</p>	

外部評価
令和4年度外部評価対象外
外部評価を受けての対応

基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

- ◆ イノベーション※を創出する事業者の育成や事業者・支援機関・市民との交流・連携、魅力的な資源の情報発信など、創造性豊かなまちの実現に向けた取組を推進します。
- ◆ 観光や商工業、農業などの振興による働く場の創出と、ライフスタイルに応じた多様な働き方を推進します。
- ◆ 女性が自らの希望によって多様な働き方を選択でき、輝ける社会の実現に向けた取組を推進します。
- ◆ 誰もがいつでも文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりや、観光や商工業、農業、福祉、教育などの関連分野との連携により、文化芸術を公共的なまちの課題解決に生かす取組など、文化芸術であふれるまちの実現に向けた取組を推進します。
- ◆ 感染症が蔓延(まん)延しても、地域経済の再生に向けた対策を推進するとともに、デジタル技術の導入などにより産業の競争力やリスク対応力の向上を推進します。



<指標の達成状況>

NO.	指標	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	観光消費額	百万円	87,755	未確定					89,065	コロナ禍で、人の往来の制限、観光施設の臨時休業等の影響による。	宝のまち創造室
2	市内従業者数	人	54,498	54,498					63,400	経済センサス活動調査の結果が未公表のため、R3年実績は基準値とした。	産業振興室
3	「宝塚」が持つ魅力の市内外への情報発信ができていと思う」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	15.4	14.9					25%以上	全体は微減だが、「十分できている」の評価は増加する傾向にある。	宝のまち創造室

<KPIの達成状況>

基本的方向(1) 地域における産業振興と雇用の確保											
具体的施策① 地域資源を生かしたブランドの強化や商店街の活性化											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	市内で商品・サービス等の提供を受けたいと思った方の割合	%	新規	97.0					-	ムック本をきっかけに買ってみたいものがあると回答した人の割合を値としている。(R4発行ムック本アンケート)	産業振興室
2	「モノ・コト・バ宝塚」選定資源数	件	156	175					-	選定は1回/2年のペースで行っており、R3度第6回選定では20資源を選定した。	産業振興室
具体的施策② 農産物の生産量増加と地産地消の推進											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	集落営農組織数	組織	5	5					8	地域での状況を注視しているが、合意形成にまで至っていない。	産業振興室
2	有害鳥獣による農作物被害額	千円	4,349	2,341					3,500	防除策を設置するとともに、地域において獣害対策に対する意識の醸成を図った。	産業振興室
具体的施策③ 身近に農業や花き・植木の魅力に触れる機会の提供											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	市民農園利用者数	人	528	551					550	新たな用地の確保は困難であったが、市街地地区域での希望者が多かった。	産業振興室
2	「農」に関する講習会等参加者数	人	1,377	840					1,400	コロナ禍の影響で開催できなかったものがあった。基準値に終了済の特定生産緑地制度に関する説明会150件が含まれている。	産業振興室
具体的施策④ 起業家や事業者への支援強化											
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	担当室
1	起業した事業者数	件	36	26					-	コロナ禍によるセミナー未実施、起業家等支援施設の利用減少が企業実現に影響した。	産業振興室
2	1店当たり年間商品販売額	百万円	186	186					-	経済センサス活動調査の結果が未公表のため、R3年実績は基準値とした。	産業振興室

具体的施策⑤ 働く意欲を持つすべての人に対する就労支援										担当室	
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	高齢者の労働力率(国勢調査)	%	18.3	18.3					-	国勢調査結果が未公表のため、R3年実績は結果のあるH27調査値とした。	産業振興室
2	「いきいきと働くことができている」と回答した市民の割合(市労働実態調査)	%	新規	-					-	令和5年度に予定する労働実態調査の結果から記載する。	産業振興室
3	宝塚市シルバー人材センター会員数	人	905	898					923	市広報紙の特集記事で様々な業種を紹介することにより、会員の減少に歯止めがかかった。	産業振興室
基本的方向(2) 多様な文化政策の展開											
具体的施策① 文化芸術活動等の振興											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	24.5	7.6					30.0	施設の臨時休業や活動の制限で、日常の活動が出来なかったため。	宝のまち創造室
2	協働による文化芸術関連事業数	事業	142	96					164	施設の使用制限や日頃の練習等が満足に行えず、全体的に事業数が減少しているため。	宝のまち創造室
3	市HPの文化芸術関連ページのアクセス数	件	6,680	41,054					70,000	施設の使用制限や日頃の練習等が満足に行えず、事業が縮小されるに伴い告知等も減少したため。	宝のまち創造室
具体的施策② 文化財や歴史資料の公開や情報の発信											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	歴史民俗資料館の入館者数	人	9,862	5,591					基準値以上	目標値は平常時を想定しものであり、達成度評価では参考値となるが、一定利用機会を確保し、利用者が当たった点を評価する。	生涯学習室
2	本市の郷土資料や文化財に係る資料展示開催回数(企画展)	回	13	13					13	目標値は平常時を想定しものであり、達成度評価では参考値となるが、一定資料展示、一般公開など開催回数を確保し、閲覧、公開に供した点を評価する。	生涯学習室
3	デジタルアーカイブ※の閲覧回数	回	新規	87,842					基準値以上	新規事業であり実績値は基準値となるが、閲覧回数は開始直後であり閲覧数が多くなったと分析している。今後の閲覧回数を注視し、維持、向上の手立てを講じていく。	生涯学習室
基本的方向(3) 観光集客の推進											
具体的施策① 宝塚の魅力を生かした誘客事業の展開											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	観光入込客数	千人	11,789	8,627					11,964	コロナ禍、旅行の手控えや観光施設の臨時休業などの影響を受けた。	宝のまち創造室
2	外国人観光客数	人	16,265	374					17,277	コロナ禍、海外からの入国制限の影響を受けた。	宝のまち創造室
3	新規観光コンテンツ開発数	コンテンツ	新規	1					5	取組の初年度は、4つの提案から1つをコンテンツとして仕上げた。	宝のまち創造室
基本的方向(4) 北部地域のまちづくり											
具体的施策① 北部地域の交流人口の増加、定住促進、公共交通の再編											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	北部地域の空き家活用件数	件/年	0	0					1	地域内には空き家が複数あることは確認しているが実際に貸せる状況に至っていない。	産業振興室 (北部地域調整担当)
2	移住相談窓口相談件数	件/年	0	8					30	情報発信ツールとしてのWEBサイト開設が令和3年度末となり、周知不足も重なり相談件数が伸びなかった。	産業振興室 (北部地域調整担当)
3	公共交通サービス提供率(人口比)	%	新規	69.8					基準値以上	新規の数値であるため評価が困難であるが、日常生活に必要な活動ができる機会の増加に努める。	建設室
具体的施策② 農産物の生産量増加と地産地消の推進(再掲)											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	集落営農組織数	組織	5	5					8	地域での状況を注視しているが、合意形成にまで至っていない。	産業振興室
2	有害鳥獣による農作物被害額	千円	4,349	2,341					3,500	防除策を設置するとともに、地域において獣害対策に対する意識の醸成を図った。	産業振興室
具体的施策③ 身近に農業や花き・植木の魅力に触れる機会の提供(再掲)											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	市民農園利用者数	人	528	551					550	新たな用地の確保は困難であったが、市街地での希望者が多かった。	産業振興室
2	「農」に関する講習会等参加者数	人	1,377	840					1,400	コロナ禍の影響で開催できなかったものがあった。基準値に終了済の特定生産緑地制度に関する説明会150件が含まれている。	産業振興室
具体的施策④ 自然体験活動等の学習機会の提供											担当室
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7年度)	指標の達成状況とその理由	
1	宝塚自然の家利用者数	人	6,403	5,213					10,000	目標値は平常時を想定しものでありまた実績値は利用日数拡大以前の数値である。従って、達成度評価では参考値となるが、一定利用機会を確保し、利用者があった点を評価する。	生涯学習室
2	宝塚自然の家における事業プログラム等実施回数	回	52	27					65	目標値は平常時を想定しものでありまた実績値は利用日数拡大以前の数値である。従って、達成度評価では参考値となるが、一定利用機会を確保し、利用者があった点を評価する。	生涯学習室

<評価>

自己評価(指標、KPIの達成状況を踏まえたうえで評価してください)

【基本目標の実現に効果があった取組(5つ程度)とその成果】

コロナ禍における旅行などの自粛により、観光業界は大きな打撃を受けており、十分な成果を生むことは困難な状況が続いている。そのような中でも、新規観光コンテンツの開発や、モノ・コト・バ宝塚の新たな選定など、行政が行える仕掛けを継続できている。
商工分野においても、同様に厳しい状況の中、新規企業者への支援や事業継続に対する支援を迅速に行うなど、行政が果たすべき事業に着手できている。
文化芸術活動においては、新たにオープンした文化芸術センターと、周辺の観光施設を巻き込んだ事業を展開しており、このような状況下においても、継続できていることは評価できる。
デジタルアーカイブの閲覧回数については新規の評価となっているが、今後は現地に行かなくても体験できるようなサービスの展開は必須であり、横展開していくべき内容である。

【今後の課題と改善策】

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、外出の自粛、イベントの中止など、観光、商工については大きな変化を余儀なくされている今日、デジタルコンテンツや、大勢が集まらずとも楽しめるイベントなどの開拓は重要な課題である。
また、本市の観光においては、宝塚歌劇団の公演の有無が非常に大きい要素となっている。観光施設の閉鎖により、どの程度の影響があったのかは数値で分析が必要だと考える。その上で、その大きな観光コンテンツで来宝した観光客を、どのように地域で周回してもらえるかの仕掛けを民とともに創っていく場が求められていると考える。
観光・商工については、行政だけで行うサービスよりも、民をいかに巻き込めるかが課題であり、評価項目にも、そういった連携、共創をテーマとした数値が求められているのではないかと考える。
同じく文化芸術分野においても、現在取り組んでいる他分野との連携、協働を進め、民の持つ力を一層活用する仕掛けを考える必要がある。

外部評価

令和4年度外部評価対象外

外部評価を受けての対応

—